

# V 学長諮問委員会

## 学事協議会

### 1. 構成員

菱沼典子（学部長・研究科長）、中山和弘（図書館長）、麻原きよみ（教務部長）、菱田治子（学生部長）、山田雅子（研究センター長）、山口喜義（事務局長）

2009年度前半は中山図書館長がサバティカル・リープのため松本図書館課長が出席した

### 2. 役割

学長の諮問機関として本学の教育運営に係る問題を協議する（学事協議会規程第1条）

### 3. 活動内容

2009年度の学事協議会は17回開催された。

主な協議事項

- ・2009年度委員会委員・活動計画
- ・名誉学士、名誉博士、Distinguished Honorary Professor 規程の作成と授与について
- ・学生増に対する対応
- ・海外の大学との交流協定
- ・教職員評価
- ・文部科学省各種補助金の申請について
- ・新型インフルエンザ対策
- ・社会人入学推進について
- ・カリキュラム改正と保健師教育のあり方
- ・研究用回線と学内 LAN について
- ・表彰制度について
- ・90周年記念行事準備委員会の設置と運営について
- ・ミセス・セントジョン記念教育基金の執行について
- ・オープンキャンパスの日程等
- ・成人看護学教授人事委員会の立ち上げについて
- ・奨学金の運用に関すること
- ・研究センターの組織再編について
- ・名誉教授号の授与について

- ・教員の大学院進学について
- ・2010年度学事暦について
- ・養護教諭一種教育課程について
- ・大学院修士課程周麻酔期看護学の設置に関すること
- ・教員人事について、研究室の部屋割りについて
- ・特待生制度について
- ・2010年度の委員会計画

### 4. 課題

将来展望を見すえた「学事」事項を計画的効率的に協議していくことが課題である。

## 自己評価委員会

### 1. 構成員

井部俊子、菱沼典子〈委員長〉、麻原きよみ、菱田治子、中山和弘、山田雅子、山口喜義、〈書記〉稲田昇三

### 2. 役割・職務

自己点検・評価の実施と結果への対応を主たる役割とする。年報の作成により、年度ごとに自己点検を行い、課題を抽出して大学組織としての改善を図る。また大学基準協会による7年ごとの認証評価を計画的に実施する。

### 3. 活動内容

11回の会議を開催した。2007年度に認証評価を受け、そこでの指摘（シラバスの統一性）は既に改善に取り組んでいること、次回は2014年度に受けることを確認した。

本年度は、年報の早期発行に向けた改革と、教職員の目標設定とその達成度評価の試行が大きな活動であった。年報は従来4月末の原稿締め切り、夏の発行であったが、3月原稿締め切り、5月発行に変更した。また、内容は認証評価の項目から本学の組織活動を基準としてもものに変更し、文章を短く、資

料は図表で示すこととした。教職員の目標設定は5月、その達成度評価を9月、3月に実施した。評価は自己評価、一次評価（直属の上司による）、二次評価（学部長並びに事務局長による）を設け、年間3回にわたり面談を実施した。さらに試行結果を踏まえ、次年度の評価表を作成した。

#### 4. 課題

年報については今年度の状況を見て、今後の年報のあり方を検討する。教職員の目標設定とその達成度評価は、教職員評価の方法のひとつとして取り上げたものであり、今後、教職員評価の全体像を検討する必要がある。

教職員の目標設定とその達成度評価のスケジュール

教 員		評価者			提出先	報告
		1次評価者	2次評価者			
教 授		学部長	—	事務局長	学長	
領域の長がいる准教授・助教		領域の長	学部長			
領域の長がいない准教授・助教		学部長	—			
提出期限	期初の目標設定	5/22	5/29	6/5		
	中間期の報告	9/16	9/24	9/30		
	期末の評価	2010/3/5	3/12	3/24		

職 員		評価者			報 告
		1次評価者	2次評価者		
課長、係長（課長不在の部署）		事務局長	—	学 長	
係長・一般職員		課 長	事務局長		
提出期限	期初の目標設定	5/22	5/29	6/ 5	
	中間期の報告	9/16	9/24	9/30	
	期末の評価	2010/3/5	3/12	3/24	

### 研究倫理審査委員会

#### 1. 構成員

＜委員長＞森明子

＜委員＞亀井智子、桑原博道、小松康宏、白木和夫、関正勝、廣瀬清人、松谷美和子、山田雅子

#### 2. 役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則ならびに研究倫理審査委員会小委員会運用細則の第一条（目的）を達成すること

#### 3. 活動内容

11回の委員会を開催し、提出された研究計画書について審査を行った（資料参照）。また、4月に教員・大学院生対象の研究倫理審査セミナーを開催した。

#### 4. 課題

委員の欠席が重なると、委員会の成立が懸念される事態が発生する。研究活動上、審査件数はどうしても上半期に集中して多い傾向がある。

表55 審査件数

	開催月日	出席委員数	新規申請		期間延長・ 一部修正等	審査件数 (新規のみ) 計
			通常審査	簡易審査		
1	4/21	6	8	0	1	9
2	5/21	9	11	0	0	11
3	5/26	8	8	0	0	8
4	6/16	8	11	0	0	11
5	7/21	6	18	1	0	19
6	9/15	8	10	0	2	12
7	10/20	8	4	0	0	4
8	11/17	8	1	0	2	3
9	12/15	7	9	0	2	11
10	1/19	8	7	0	5	12
11	3/16	7	7	1	2	10
計			94 [内訳] 教員:35 博士前期:31 博士後期:28	2 [内訳] 教員:1 博士後期:1	14	110(96)

表56 審査結果

審査結果	承認	条件付き承認	保留	審査不能
通常審査	59	32	2	1
簡易審査	1	1	0	0
計	60	33	2	1

## 人権委員会

### 1. 構成

＜委員長＞田光信幸（日本聖公会東京教区、聖マールゲレット教会司祭）

＜委員＞松谷美和子（研究科委員会）、森明子（研究倫理審査委員会）、上田憲明（教授会）、岩間節子（評議員会）、細谷亮太（聖路加国際病院）、＜書記＞稲田昇三

### 2. 役割（規程）

人権委員会規程第2条

(1) 本学におけるセクシュアル・ハラスメントや

アカデミック・ハラスメント及びその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利・利益に関する諸問題に関する事項を審議すること

(2) 本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること

(3) 本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること

(4) その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

### 3. 活動内容

(1) 委員会開催

第1回 2009年12月4日(金)

第2回 2010年3月17日(水)

- ・新任委員(松谷委員、森委員)紹介、田光委員長留任を了承。
- ・前年度の活動報告
- ・前年度に申立を受け審議した事件2件につき、その後の状況を確認し、第2回委員会で事態が改善されたことが確認できた。

#### 4. 課題

人権委員会規程に付随して、学内人権事項に関して申し立てる方法について「運用細則」を定め、申立の様式も明示している。また「ストップ・ハラスメント!」と題するリーフレットも新入学生・教職員に配付している。しかし、「申立」は過去に1回2件のみである。学内広報手段を再考する必要がある。

### 発明委員会

#### 1. 構成員

- ＜委員長＞山口喜義
- ＜委員＞井部俊子
- ＜事務局＞田口 瞳

#### 2. 役割・職務 (聖路加看護大学発明規程)

職務発明等の知的財産権継承の可否および出願手続きに関する審議決定

#### 3. 活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続きの審議を行っている。

#### 4. 課題

発明、実用新案等に該当するかどうかの事前相談が必要であり、件数が増えると相談窓口となる特許事務所を定めておくことが望ましい。

#### 5. 参考データ

知的財産継承件数	発明	3件
	実用新案	2件

実用新案に関する製造販売許諾対価として2009年度に52,611円の入金があった。

### 危機管理委員会

- ＜委員長＞山口喜義
- ＜委員＞井部俊子、菱沼典子、菱田治子、山田雅子、進藤 務

#### 2. 役割・職務 (聖路加看護大学危機管理規程)

- (1) 危機管理に関する対策の検討、準備
- (2) 緊急時の対策本部機能を担う
- (3) マスコミ対応が必要な場合の措置

#### 3. 活動内容

- (1) 事務部金庫保管重要書類の確認
- (2) 新型インフルエンザ・結核の対応
- (3) 危機管理規定の制定
- (4) 備蓄品、非常持ち出し書類の確認
- (5) 防災マニュアル(学生版・教職員版)の検討、作成
- (6) 消防計画の検討、作成

#### 4. 課題

- (1) 消防計画の毎年更新、消防署への提出
- (2) 消防訓練を実際の火災を想定して、より効果のある内容に変えて実施すること
- (3) 防災マニュアルの改善
- (4) 危機管理を全学的な課題として学生・教職員に意識化すること

#### 5. 資料

- (1) 非常用備蓄品  
ポータブルトイレ7台、ミネラルウォーター(2ℓ)354本、乾パン(100g)338缶

### 大学史編纂資料室・資料室委員会

#### 1. 構成員

- ＜室長＞渡部尚子(客員教授)
- ＜職員＞新沼久美(図書館兼務)
- ＜臨時職員＞結城瑛子(同窓生)
- ＜大学史編纂・資料室委員会委員長＞中山和弘
- ＜委員＞有森直子・小野若菜子・矢ヶ崎香・安ヶ平伸枝(以上 教員)、進藤 務・松本直子・新沼久美(以上 職員)、渡部尚

- 子(編纂資料室)、内田郷子・岩間節子・菅原文子(同窓生)
- <ブックレットワーキンググループ>大森純子・佐居由美・中村綾子(以上教員)、進藤 務・松本直子・新沼久美(以上 職員)、渡部 尚子(編纂資料室)
2. 役割・職務(大学史編纂・資料室委員会規程)
- (1) 本学に関連した史資料の収集
  - (2) 収集史資料の整理・保管
  - (3) 史資料の提供・開示
  - (4) ブックレット発刊作業(ワーキンググループ業務)
3. 活動内容
- 1) 収集史資料
 

公文書(専門学校認可申請関連等)、非公文書(暦年学年集合写真・授業実習記録・寮廃止関連記録、ナイチンゲール受章者関連資料等)の収集。インタビューの実施。
  - 2) 整理・保管
 

1900年～1966年間の写真電子複写とデータベース化
  - 3) 提供・開示
 

展示室の開設(年表・企画展示)、ブックレットの電子図書化、写真展(同窓会・日本看護歴史学会・白楊祭・創立90周年式典)、研究発表(日本看護歴史学会・同窓会クラス委員会)、広報(「学園ニュース」・「同窓会だより」への写真と原稿提供)、教育支援(写真教材の提供)、Lukapedia 開設。
  - 4) ブックレット発刊 (編集作業・原稿指定・校正等)
- 5) その他  
日本看護歴史学会第23回学術集会開催運営支援
4. 課題
- 1) 短期的課題
    - (1) 公文書・非公文書の移管ルール作り
    - (2) 収集資料の補修復・保存作業の環境整備(人・モノ・予算)→保管庫確保
    - (3) ブックレット評価と増刷・改訂、次号発刊の検討と編纂
  - 2) 中長期的課題
    - (1) 大学史編纂・資料室ニュースレター発刊の検討
    - (2) 編纂資料室の将来構想(病院との協働連携)
    - (3) 100年史編纂にむけての検討
5. 資料等
- 1) インタビュー協力者 坊城中子・鍾 信心・大矢タマ・柴田敏子・河野和子・高野光子・吉田芳子・千野静香(8名)
  - 2) ブックレット
 

総経費 84万円、執筆者 30名、印刷部数 3000部、配布(記念式典、教職員・在学生・院生・研修生・病院関係者・看護系大学および全国史資料協議会加盟大学図書館他)
  - 3) 歴史展示室: 総経費 304万円(パネル・展示ケース・室内リフォーム・ガラス)
  - 4) Lukapedia(大学史編纂・資料室ホームページ): 総経費 49万7千円  
(URL) <http://quilt.slcn.ac.jp/lukapedia/>  
(メインページの構成) お知らせ/歴史展示室だより/新着記事/カテゴリへのリンク



歴史展示室



案内

- メインページ
- コミュニティ・ポータル
- 最近の出来事
- 最近更新したページ
- おまかせ表示
- ヘルプ

検索

メインページ



Lukapedia: 聖路加看護大学 ともにつくる歴史事典

このページは・・・

聖路加看護大学の歴史をともにつくる事典です。調べる人、読む人がその興味にそって気軽にたどっていただけるようにインターネット上に公開することになりました。また学生、教職員、卒業生、聖路加看護大学に関わる人々が、ともに編集したり新しく書き加えたりできるような仕組み(Wiki)を取り入れています。  
(大学史編纂・資料室)

お知らせ

**2010年1月25日(月)90周年創立記念式**  
 13:00～15:00 アリス・C・セントジョンメモリアルホール  
 名誉教授、名誉博士号授与式  
 講演「私の歩みと聖路加の教育」鍾信心先生(1947年卒)  
 講演「聖路加看護大学の歴史と未来」日野原重明理事長  
 15:00～15:30 歴史展示室披露

新着記事(最新5件)

- 1900年
- 1902年
- 1904年
- 1909年
- 1912年

歴史展示室だより

聖路加の歴史をふりかえる場所ができました。図書館前の本当に小さなスペースですが、ほっとする雰囲気、静かに過去を振り返りながら未来を思うことのできる空間です。



創設期の先生方

展示1「聖路加の礎を築いた人々」

企画展示初回は聖路加の礎を築いた4名の方々をご紹介します。

- 聖路加の父 ドルフ・B・トイスラー
- 聖路加の母 アリス・C・セントジョン
- 本國初教育によって看護職業成を築いた 荒井小良
- 聖路加の看護教育を推進した人 サラ・G・ホワイト

今では遠い存在の方々を少しでも身近に感じていただけただけでしょうか？

展示2「フローレンス・ナイチンゲール 記章受賞者の足跡」

看護界における世界最高の栄誉・フローレンス・ナイチンゲール記章を受賞した卒業生は、湯根ます先生、高橋ジュン先生、永井敏枝先生の三名です。受賞資格は、平時または戦時において、傷病者、障害者、紛争や災害の犠牲者に対して、献身的な活動や創造的・先駆的な貢献をした看護師等で、1993年(平成5)からは、男性、さらに公衆衛生と看護教育分野における貢献も受賞対象に追加されました。この記章は、鍍銀で作製されアーモンド型をしています。記章表面には燭台を手にしたナイチンゲールの像と「1820-1910年 F・ナイチンゲール 女史記念」の文字があり、裏面はラテン語で「博愛の功徳を顕揚し、これを永遠に世界に伝える」と刻まれています。⇒ナイチンゲール記章の受賞者



ナイチンゲール記章受賞者

カテゴリ

歴史 - 年表 - 年号 - 人物 - 用語

カテゴリごとにページを探すことができます。

カテゴリ: メインページ



このページの最終更新は 2010年2月2日 (火) 23:53 に行われました。 このページは 1,133 回アクセスされました。 コンテンツは Public Domain のライセンスで利用することができます。 プライバシー・ポリシー 聖路加看護大学史編纂資料室について 免責事項



大学史編纂・資料室・ホームページ「Lukapedia」

委員長・部課長会議

1. 構成員

本学の部長・課長・各委員会の委員長を構成員とする。

2009年度の構成員は以下のとおりである。

井部俊子 (学長)、山口喜義 (事務局長)、菱沼典子 (学部長)、麻原きよみ (教務部長)、菱田治子 (学

生部長)、中山和弘 (図書館長)、島田裕司 (経理課長)、進藤務 (事務部課長)、稲田昇三 (総務課長)、高橋昌子 (教務課長)、高鳥直人 (管財課長)、松本直子 (図書館課長)

<委員会>菱沼典子 (自己評価委員会)、山口喜義 (発明規程委員会)、山口喜義 (危機管理対策委員会)、麻原きよみ (カリキュラム運用委員会)、小松浩子 (入試委員会)、中山和弘 (図書

委員会)、渡部尚子(大学史編纂・資料室委員会)、山田雅子(研究センター運営委員会)、江藤宏美(広報委員会)、伊藤和弘(学園ニュース委員会)、菊田文夫(F S委員会)深谷計子(紀要委員会)、田代順子(研究センター国際部門運営会議)、深谷計子(国際交流委員会)、萱間真美(情報システム委員会)、平林優子(実習室委員会)、及川郁子(養護教諭1種検討会)、山田雅子(表彰運営委員会)、菱沼典子(るかなび運営会議)

## 2. 役割

委員長・部課長会議は、2008年6月24日に第1回会合をもった。

この会議は①本学で管理的機能を担っている者に集ってもらい、大学の管理・運営について自由な意見交換を行い、大学運営を円滑に行うとともに戦略を検討していく機会とすること、②常設委員会の規程を作成することであった。②については事務局長が委員会規程の標準型を提示し、2008年度中に作業を終えることができた。

## 3. 活動内容

2009年度は5回の会合を開催した。

### ①2009年5月26日15～16時

- ・2009年度組織図、重点活動計画の提示
  - ・るかなび運営会議、広報委員会、NP 検討会の報告と意見交換を行った。
- ムハマド・ユヌス講演録(1,000部作成)の配布

### ②2009年7月28日14～15時

- ・入試委員会、研究倫理審査委員会、表彰運営委員会、実習室委員会の報告を受け意見交換を行った。

### ③2009年10月27日14～15時

- ・来年度予算作成方針(経理課長)の説明があり、非常勤講師の交通費支給が要望された。
- ・大学としての広報活動の検討
- ・「創立90周年記念事業資金(二次)」の募金方法について
- ・研究用インターネット回線の私物PCへの開放について(情報システム委員会)

### ④2009年10月27日14～15時

- ・大学院パンフレット1200部の有効活用をPR
  - ・大学の広報戦略について(広報委員会)
- ブランド戦略展開案をもとに意見交換を行う

### ⑤2010年3月23日15～16時

- ・2010年度組織図(案)の検討
- ・2010年度事業計画(理事会承認)の説明(事務局長)
- ・2009年度重点活動計画のレビュー

## 5. 課題

- (1) 大学の教学とアドミニストレーションの有機的な連携を価値するために役立っているので、2010年度は「大学マネジメント検討会」として組織図に位置づけて活動を継続する。
- (2) 構成員の問題意識と活発な意見交換によって大学運営が活性化していくことを期待する。